

- 開港25年を迎えた但馬空港が、引続き但馬・京丹後地域の発展に資するためには、次の四半世紀を見通し、航空ネットワークの充実や空港機能の強化、空港アクセスの改善、様々な空港の賑わいづくりを進めていく必要がある。
- 拡大する航空需要、高規格道路の供用などの環境変化を踏まえ、今後の但馬・京丹後地域における但馬空港の役割を再確認
- 将来に向けた但馬空港のあり方を明確にした上で、早急に取り組むべき施策を検討

懇話会の検討内容

【ひょうご2030年の展望】

～五国を活かし 日本を先導“世界”につなぐ～

あり方
懇話会

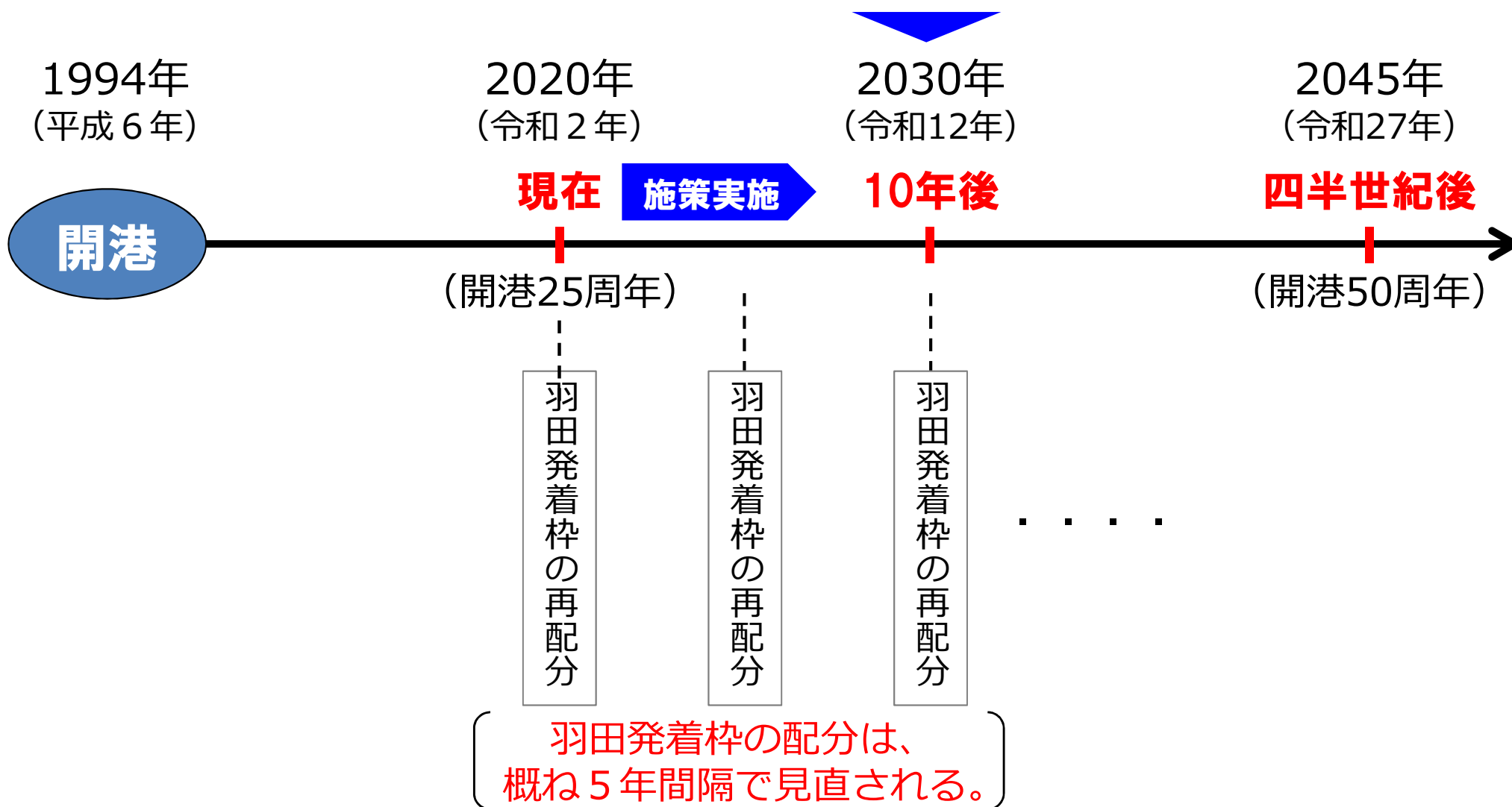
- ① 四半世紀後(2045年頃)を展望しつつ、
10年後(2030年)の但馬空港の姿を明確にする。
- ② 10年後の但馬空港の姿を実現するため、
早急に取り組むべき施策を提案する。

兵庫県

- 懇話会のとりまとめを踏まえ、基本方針・事業計画を立案
 - ロードマップ（短期、中期、長期）
 - 県・関係機関の役割分担
 - 施策推進体制の構築

時間軸の考え方

- ①兵庫2030年の展望の想定年次
交流人口 2017：139百万人⇒2030：187百万人
- ②明日の日本を支える観光ビジョンの目標年次
訪日外国人2017：2,869万人⇒2030：6,000万人
- ③羽田発着枠の再配分のタイミング
(羽田発着枠政策コンテスト募集の可能性もある)



検討の視点

論点

- ①但馬・京丹後地域の持続的発展に向けて、但馬空港はどのような姿であるべきか？
- ②その姿を実現するために、何に取り組むべきか？

【検討の視点】

①但馬空港のあるべき姿

- ・ 航空ネットワーク（就航先、運航便数、多彩な航空事業者（FSC, LCC））
- ・ 就航率
- ・ 空港のにぎわい
- ・ 空港へのアクセス
- ・ 地域との連携
- ・ 空港運営 など

②取り組むべき施策

- ・ 施策例：空港機能の強化、空港ビルの改修、交通アクセスの充実 など
- ・ 検討のポイント：定量的・定性的な事業効果の把握、費用対効果 など

今後のスケジュール

第1回
(R2.2.6)

- ①但馬空港の概要・現状
- ②但馬空港を取り巻く環境変化
- ③但馬空港の課題

・R2.3月 シンポジウムの開催(但馬空港の将来像を語る)

第2回
(R2.6月頃)

- ①論点・課題の整理
- ②空港の機能強化策
- ③航空ネットワークの充実策

第3回
(R2.夏頃)

- ①論点・課題の整理
- ②今後のあり方・施策(案)

・県民意見の聴取

第4回
(R2.秋頃)

- ①とりまとめ

・R2.冬頃 シンポジウムの開催(但馬空港の目指す将来像を地域と共有)